



みんな元気！ 学校元気！ ふるさと元気！

# 「元気！」 第10号



令和6年2月1日(木)発行

(りんどうヶ丘小ホームページQRコードです。給食やブログ等をご覧ください)

## 能登半島地震被災地支援金を 能登町立小木小学校へ！

令和6年1月1日夕方の能登半島地震により被災された方々を支援したいという**子供たちの善意の声が行動につながりました。**

被災地支援のための義援金募集の活動は、日本赤十字社や赤い羽根共同募金、各テレビ局など様々な団体で多種多様な活動が展開されておりますが、これらの活動で集まった義援金は、道路、水道、住宅、公共事業、避難所運営、その他インフラ整備などのために使われることと思えます。

本校では、そのような義援金活動とは切り離して、**りんどうヶ丘小学校から被災地のどこかの小学校へ直接届ける**ことで、**確実に同じ小学生のために使われることを願って**、児童会を中心に募金活動に取り組みました。

1月15日から19日の一週間子供たちがお正月にもらったお年玉やお小遣いの中から**100円玉や千円札などを握りしめて心のこもった募金**をしてくれる姿がありました。

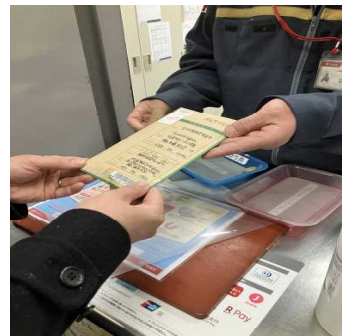
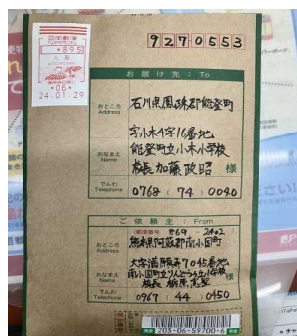
そこで、能登半島のたくさんの小学校の中から、**能登町立小木小学校**を選び、このほど現金書留で、**総額135,222円**を送らせていただきました。

能登町立小木小学校は、**全校児童51人**で3・4年生が複式学級という本校と同じ規模の学校です。違うのは、海辺の学校ということです。南小国町では「**里山体験学習**」が行われていますが、小木小学校では「**里海体験学習**」が行われています。イカ漁が盛んでイカにちなんだお祭りもあっているようです。

震災直後は、一日1時間だけ10時から11時まで登校し、カルタやストレッチ、読み聞かせやクラフト活動など、子供たちの安心感を取り戻す活動が行われていました。

その後、**1月22日に学校が再開、始業式**が行われ、お友達とのかけがえのない時間がまた始まっているようです。

なお、今回の募金活動には、**保護者の皆様にも多大なるご協力**をいただきましたことに心より感謝申し上げます。



<郵便局窓口で現金書留を渡すところ>

以下、小木小学校あてに書いた手紙です。

この度の能登半島地震により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

また、日常生活もままならない状況の下で、子どもたちの心の安定と学びの保障のために日々ご尽力なされておられますことに敬意を表します。

さて、本校は、大分県との県境に位置する熊本県阿蘇郡南小国町にある、へき地一級、全校児童48人の山あいの小規模校です。

その本校児童会の話し合いにおいて、被災地域の小学校に同じ小学生として何らかの形で支援をしたいとの思いから、募金活動を行うことが決定し全校児童・全教職員で取り組んだところ、このほど現金117,722円と図書カード17,500円分が集まりました。

つきましては、貴校にお贈りしますので、必要なものに自由に使っていただければ幸いです。貴校ホームページを拝見させていただくと、「地震なんかには負けない元気な小木小学校」をつくっていきたいという子どもたちの力強い意気込みや元気が伝わってきます。

まだまだ学校の日常を取り戻すには時間がかかることと存じますが、この寄付金が貴校の子どもたちの元気な活動につながり、「ビルドバックベター」の一助になりますことを願っております。



<毎朝、募金に列をつくる子供たち>

<めざす家庭・地域像>

笑顔と元気がいっぱいの家庭・地域！ 安心して生活できる家庭・地域！ 子どもの夢実現を支える家庭・地域！